

「今日の説教、聴き手のために」 2013/5/26 明治学院教会 (312)

(このプリントは毎週作っているものです)

牧師 岩井健作

「チャペル、根付きだした教会」 エフェソ4:7-16 (10周年)

選句「むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で頭であるキリストに向かって成長していきます。」 (4:15)

1、ここは「大学」のチャペルの講壇です。日曜は教会の説教壇です。大学は理性の府ですから自ずとチャペルでは理性に訴える話をします。教会では当然信仰の喚起になります。「理性」と「信仰」の重きの置き方の違いを示しているのはマタイ20章と19章の違いです。「ぶどう園の労働者」の話は理性に訴える話です。「現代の社会保障」など考えれば経済至上主義では成り立ちません。「このように、後の者が先になり・・・」は当然の理なのです。19章は信仰の話です。「持ち物売り払えなかった金持ち」の姿に、ペトロが「なにもかも捨ててあなたに従ってきた」と自負を述べます。するとイエスは「しかし、先にいる多くの者は後になり・・・」とペトロの自負を戒めます。私自身の自戒、反省にまつわるエピソードがあります。私が50余年前伝道・牧会した教会で受洗した方がいます。後の生涯を惜しみ無く教会奉仕されたその方の教会に招かれました。実情はその方はいつの間にか「小ペトロ (教会ボス)」になってしまって、若い牧師や若い教会員が困っていたのです。「教会」によくある話です。責任を感じ、荷を共にする役目のお招きか と思いきや、末期癌のその方への励ましと慰めの役を与えられ「愛に根ざして真理を語る」教会の存在を感じました。マタイ19書の「先の者は後に」を心に刻みました。実は最近「謙遜」「自分を捨てる」という説教を続けました。とうぜん、自戒も込めてです。

2、「理性」に重きをおく大学は大人の世界です。でも、教会には「信」そのものの模範である「幼子」が与えられています。10年の間に「幼児洗礼」を受けた子供が二人います。教会の根付きを感じます。初めこの教会が「上倉田」から分かれた時、大学チャプレンが牧師でなかったら、立ち行かなかったでしょう。しかし10年目、不思議な、不思議な神の導きで、「自前の牧師」を与えられました。「自前の牧師」を招くまでの少しの間の「お手伝いですよ」と、お役目を引き受けた私は来年の春に引退します。横浜上倉田教会にも「10年」のご案内を差し上げ、祝福の言葉を戴きました。10年の根付きを感じます。無償でチャペルを使用させて戴く代償のしるしぐらいはと、社会的働きに毎年捧げています。昨年は50箇所、44万7千円捧げました。「明治学院 (教会)」という名前を覚えて戴く繋がりも出来ています。

3、「大学」は「理性」の府です。「真理はあなたがたを自由にする」(ヨハネ8:32)は理性の句です。同志社は明徳館の塔にラテン語でこの聖句を刻んでいます。明学もかつてどこかに掲げていたそうです。今は、教会で代わりに掲げようとの提案があり、週報に載せています。しかし、教会は「信仰 (愛・希望)」の証の場です。「愛に根ざして真理を語り、・・・」(エフェ4:15)とあるように「真理」が「信仰・愛・希望」によって裏打ちされるところです。「裏打ち」とは何でしょうか。それは、イエスの生涯、その振る舞いと言葉、十字架と復活、即ち「福音」に包まれて歩む喜びです。